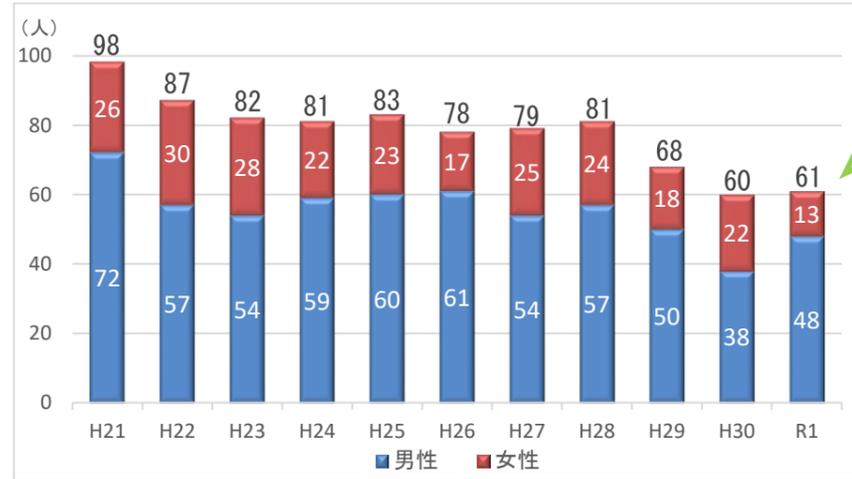




# 倉敷市における自殺の現状

## ◆自殺者数の推移



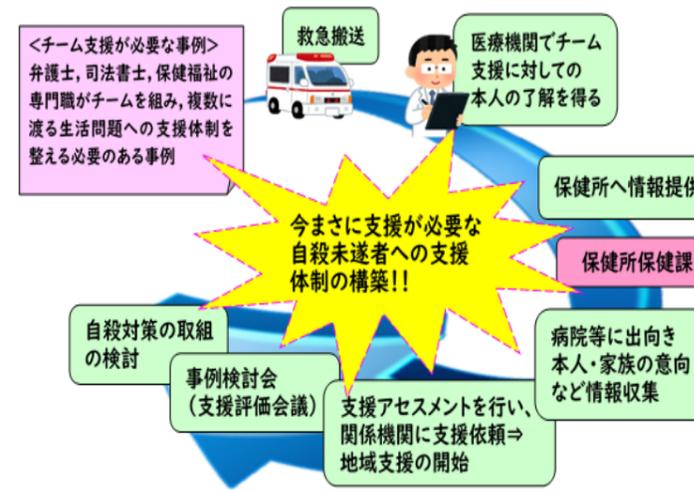
資料：人口動態統計（厚生労働省）

平成21年の98人をピークに、徐々に減少傾向です。しかし、現在も年間約60人の方が亡くなられており、本市としても、重要な健康課題と考えています。



# トピックス 倉敷市自殺未遂者支援事業

## 【自殺未遂者支援事業の流れ】



自殺ハイリスク者である自殺未遂者やその家族に対して、司法書士や弁護士、保健福祉の専門職がチームを組み、多岐にわたる生活問題の解決に向けた支援を実施しています。

医療機関から支援依頼を受けた倉敷市保健所は、支援開始当初に積極的に介入し、支援のコーディネートを行うことで、再度の自殺企図を防止します。

また、支援事例を通して、関係機関の役割やネットワークについて分析し、倉敷市の地域特性に応じた相談支援体制の整備（セーフティネット）のあり方や人材育成のあり方について検討しています。

## 「生きる」を支える暮らしきプラン(第2期) 計画の指標・目標値

【指標】	【基準値】	【目標値】
自殺者数の減少	【令和元年】 61人	【令和7年】 55人以下
ゲートキーパーを知っている人の増加	【令和2年度】 8.3%	【令和7年度】 20%
ストレスをうまく解消できていると思う人の増加	【令和2年度】 65.6%	【令和7年度】 80%
困った時、悩みがある時に相談する人がいると答えた子どもの増加	【令和元年度】 87.7%	【令和7年度】 96%
自分や家庭の事情にあった働き方ができていると思っている人の増加	【令和元年度】 73.2%	【令和7年度】 82%
身近で相談できる人がいる高齢者の増加 (高齢者支援センターの相談件数)	【令和元年度】 101,230件	【令和7年度】 102,500件以上

## 自殺対策を推進する上での 基本認識及び基本方針

### 【基本認識】

- ◆自殺は、その多くが追い込まれた末の死である
- ◆減少傾向にはあるが、年間自殺者数は2万人を超えており、非常事態はまだまだ続いている
- ◆地域レベルの実践的な取組をPDCAサイクル(※)を通じて推進する

※PDCAサイクルとは、P(Plan=計画)、D(Do=実行)、C(Check=評価)、A(Action=改善)を繰り返し、業務をより良く改善し続けることをいいます。

### 【基本方針】

- ◆生きることの包括的な支援として推進
- ◆関連施策との有機的な連携による総合的な対策の展開
- ◆対応の段階に応じたレベルごとの対策の効果的な連動
- ◆実践と啓発を両輪として推進
- ◆関係者の役割の明確化と連携・協働の推進

## 自殺対策における具体的な取組

### 【生きる支援施策】

- |                               |                       |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1 市民一人ひとりの気づきと見守りを促す          | 6 社会全体の自殺リスクを低下させる    |
| 2 自殺対策の推進に資する調査研究等を推進する       | 7 自殺未遂者の再度の自殺企図を防ぐ    |
| 3 自殺対策に係る人材の確保、養成及び資質の向上を図る   | 8 遺された人への支援を充実する      |
| 4 心の健康を支援する環境の整備と心の健康づくりを推進する | 9 民間団体との連携を強化する       |
| 5 適切な精神保健医療福祉サービスを受けられるようにする  | 10 子ども・若者の自殺対策を更に推進する |
|                               | 11 勤務問題による自殺対策を更に推進する |

### 【基本施策】

(自殺対策を推進する上で欠かせない取組)

- 1 地域におけるネットワークの強化
- 2 自殺対策を支える人材の育成
- 3 市民への啓発と周知
- 4 生きることの促進要因への支援
- 5 援助希求力を高めるための支援

### 【重点施策】

(本市における優先的な課題への取組)

- 1 子ども・若者への支援の強化
- 2 勤務・経営問題に関わる自殺対策の推進
- 3 高齢者への支援の強化
- 4 被災者等への心のケア